

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 0175700434 | | |
| 法人名 | 有限会社 リアン | | |
| 事業所名 | (有)リアン グループホーム えみな栄町 | | |
| 所在地 | 北海道岩見沢市栄町2丁目1番9号 | | |
| 自己評価作成日 | 評価結果市町村受理日 | 平成28年4月14日 | |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

| | |
|-------------|---|
| 基本情報リンク先URL | http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0175700434-00&PrefCd=01&VersionCd=022 |
|-------------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------------|
| 評価機関名 | 有限会社 ふるさとネットサービス |
| 所在地 | 札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階 |
| 訪問調査日 | 平成 28 年 3 月 30 日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様お一人お一人に対し個々のニーズを大切に、それぞれのお好みに合わせた支援を行っています。できない事を数えるのではなく、できる事をゆっくりでもしていただけるよう、言葉がけや見守りを行っています。また、季節ごとの行事や外出、町内会との関わりなど幅広い活動を通して日々の生活を楽しく充実したものにしていけるような支援を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、開設して10年が経過しています。併設の小規模多機能型居宅介護事業所とは日常的に交流があり、それぞれの職員と利用者は顔馴染みの関係になっており、大家族が暮らしている雰囲気を感じられます。利用者の運動不足解消のため、広い廊下を利用した室内散歩を日課とし、身体機能維持と五感刺激に繋がっています。居間には神棚を設けており、参拝する利用者もいます。管理職はもとより、職員間に於いても風通しの良い職場にしたいと意見を出し合っています。利用者が安心して暮らしていけるホームでありたいと、職員はさらなる知識や技術の向上に努めている「グループホーム えみな栄町」です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

| 項目 | | 取組の成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取組の成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|---------------------|--|----|---|---------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19) | ○ | 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38) | ○ | 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20) | ○ | 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12) | ○ | 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | | | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|---|---|--|---|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念はホーム内の目につきやすい場所に掲示しており管理者職員ともに日々の生活や行事の際にその理念を共有しながら実践へつなげている。 | 地域との関係性を踏まえた法人理念を職員は共有し、さらに、一人ひとり独自の理念を掲げケアサービスで実践に努めています。日常業務や会議等で理念を基本としたケアになっているかを確認しています。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会行事や外出の際の挨拶、また運営推進会議の際に出席いただく町内会役員の方々との交流を持つなど、地域住民の一員としての意識を持って生活している。 | 地域の神社の初詣や町内会の盆踊りに利用者とかけています。利用者は、職場体験で訪れる中学生との触れ合いや、法人主催の敬老会での中学生の演奏会を楽しんでいます。併設の事業所を利用している方々とは馴染みの関係になっています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議の中で、認知症の症状や特徴、ケアの方法などを議題として理解を深める努力を行っている。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議では、ホームの現状報告を行い、参加者の皆様からの意見をいただく事によりサービス向上に役立てる事ができている。 | 併設の事業所と合同で2か月毎に開催しています。ホームの現況を報告し、情報や意見交換が行われています。利用者の食事形態に沿った食事の提供や協力医による終末期に向けての勉強会を通しホームの理解に繋がっています。 | 議事録の充実に向けて、意見交換の具体的な記載期待します。可能であれば全家族に議事録を送付し、運営推進会議への理解や出席を得られることを期待します。 |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | ホームの状況や取組について伝える事でよりよい協力関係を築く事ができている。 | 代表者が担当窓口を訪れて事故報告書を提出しています。定期的実施される行政の実地指導や利用者の状態把握に来訪されるケースワーカー等には管理者が対応しています。行政の各担当者からの意見や提案をホーム運営に生かしています。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止対策等行動制限防止に係る規定を用いた内部研修を行い、全職員が統一した理解を持ち業務にあたっている。身体拘束は行っていない。 | 身体拘束防止に向けて「身体拘束ゼロへの手引き」等の資料をファイルし、職員が何時でも閲覧出来るようにしています。外部研修に参加した職員がミーティング時に伝達講習を行い、情報を共有しています。夜間以外、玄関は解錠し、利用者の自由な暮らしを支えています。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修会への参加、そのフィードバックをミーティング等で全職員で共有し虐待防止に努めている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修会へ参加し積極的に学習機会を設けている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 普段からの会話や交流を大切にし契約に関する際も十分な説明と納得していただけるよう時間をかけている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議やご家族様の面会の際などにも意見を聞く、またニーズ調査なども行っている。 | 日頃の関わりの中や年1回実施している要望の調査等で、利用者や家族の要望を把握しています。出された意見や要望は、都度職員間で解決に向けて協議をしています。利用者の日常の様子を知らせる「ホーム便り」や、個別の写真を家族に送付しています。 | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | いつでも提案できる体制作りを行い、スタッフの声を反映できるようにしている。 | 代表者や管理者、リーダーは、職員が意見を出しやすい雰囲気作りに努めています。その日出勤した職員が行事等の各業務を担当し、スムーズなホーム運営に活かしています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 責任感をもって積極的に業務に取り組む者や向上心を持ってスキルアップを目指す者への評価を行っている。また明るく働きやすい雰囲気づくりを心掛けている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新人に対しては1人1人個別の評価を行い仕事を進めるようにしている。仕事に慣れた職員の間でも外部・内部を問わず研修参加を励行している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている | 外部研修に参加する機会を多く持ち、その中で同業者との交流により意見交換等行い自事業所へ持ち帰る事ができている。 | | |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | サービス利用に際し十分なコミュニケーションを持ち、不安や心配、困っている事を十分に聞き取り、入居後でもいつでも話していただけるよう、また随時声掛けにより不安や不満をため込まないよう配慮している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居の際に限らず、面会時や行事参加時などに積極的に会話を持ち、困っている事や要望等を気軽に話していただけるような雰囲気を中心掛けている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | すぐに入居が困難な場合もありそのような際には、他事業所のサービス利用や小規模多機能型居宅介護での対応など、関係機関との連携も視野に入れた対応を行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 出来る事はしていただき、食事に支度や後片付け、洗濯たたみなど職員と共に作業をする事により、介護される一方の立場ではない生活をしていただいている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 行事への参加や面会時の声掛け、またご家族様の相談に乗り応える事によりともに支える関係を築いている。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入所後にゆかりのある方々との関係が消えてしまわないよう、面会に来やすい状況を考えている。 | 利用者の高齢化や医療依存度の高さもあり、社会的繋がりに対する要望は少ない状況です。職員は、利用者の思い出話を傾聴し共感するなど、利用者の生活歴を大切にしています。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 無理のない範囲で、日中は主にデイルームで過ごしていただき、体調や好みに合わせて自室ですごしていただくなど個別の対応を行っている。他人との関わりを好まない方もいるが、孤立しないよう声掛けや居室訪問などを行っている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了となったご家族様より連絡や相談が入る事が、それまでの関係や経過などを念頭におきながら対応している。 | | |
| Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | アセスメント・モニタリングにセンター方式を導入し、1人1人を理解するよう努めている。 | 介護度の高まり等に伴い、以前のように要望を表すことは少ない状況です。利用者一人ひとりの生活歴や家族の情報を参考に、言葉や表情等から利用者の望むものは何なのかを察する取り組みが行われています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|--|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時における聞き取りの記録や日々の会話のなかからその方のこれまでの暮らしや大切にしている物を把握するよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日のミーティングや1日に2回の申し送り、また月ごとのカンファレンスにて、職員全部が把握できるよう努めている。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | センター方式を用いて、ご家族様やご本人様の意見を取り入れながら計画を作成している。 | ケアプランは、利用者や家族が望む生活への要望を踏まえ、職員から聞き取った情報や意見を参考に計画作成担当者が作成しています。定期的見直しや利用者の状態変化時は、現況に即した新たなケアプランを策定しています。 | 職員の意識統一を図る上で、ケアプランは出来る限り全職員の意見交換を経て作成することを期待します。ケアプランの実践が個別の記録で容易に確認できる書式の工夫にも期待します。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 記録の整備とそれを共有する事で日々の気づきや工夫を生かす事ができている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 相談の段階から、本人やご家族様にとってのニーズを把握し、変化があった際にはその時に合った提案をしている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 町内会の行事や市内のお祭り、初詣などで、季節ごとの行事を安全に楽しめるよう支援している。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力医院からの往診を利用、歯科の往診も受けており医療面での質の確保はできている。 | 利用者や家族が希望する医療機関への受診は、家族の協力を得ながら職員が同行しています。協力医の往診や看護師による訪問体制も整備され、利用者の健康状態は「健康管理記録」に記載し、関係者と共有しています。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護ステーションとの契約により訪問看護師との連携をとる事で健康面の管理を行い、適切な受診や看護を受ける事ができている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|--|---|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | ご利用者が入院した場合は、2、3日に1度の面会を行い、病院関係者に体調面の相談を行うなど、健康管理と早期退院へ向けての対応を行っている。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる | 入居の際に、終末期について話し合いを十分にを行い、重度化した場合には、医師も含めた話し合いを繰り返しご本人様・ご家族様ともに後悔のない最期を迎えられるよう支援を行っている。看取り加算の算定も行っている。 | 重度化や終末期に於ける対応は、重要事項説明書に記載しています。重篤時は、家族、医療関係者、職員と話し合いが行われ、方針を共有しています。看取りの経験は、職員の知識や技術の向上に生かされています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 外部研修での成果を事業所内へフィードバックし定期的な訓練を行う事により実践力を身に付けている。また緊急連絡先や医療機関の一覧表の整備を行い緊急時の備えている。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回の避難訓練の際には消防からの指導も受けている。またセコムとの連携も図っている。 | 併設の事業所と合同で消防署や地域の方の協力を得て、日中・夜間想定避難訓練を年2回実施しています。非常時は、系列の事業所や赤平市内の介護施設と協力体制を構築しています。災害時備蓄品は順次用意しています。 | マニュアルを整備し、職員の共通認識に努めていますが、停電や大雨を含めた自然災害を想定した訓練や避難場所の家族への周知、防寒対策等の備蓄品の充実、訓練の結果を記録に残し次回の訓練に活かす取り組みに期待します。 |

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

| | | | | | |
|----|----|--|--|--|--|
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 人格の尊重の徹底、利用者への尊敬の気持ちを忘れず言葉かけや対応を行っている。 | 排泄時や入浴時は、同性介助を基本としています。職員は利用者の尊厳を念頭に置き、ケアサービスに努めていますが、不適切な対応が見られた場合は、リーダーが正しい接遇を指導しています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日々の対応の中で、まず言葉かけをし納得いただいたからの対応を心掛けている。可能な際には、ご利用者様ご本人が選択できるよう何通りかの選択肢を用意できるよう準備をしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している | 大まかな日々の日課はあるが、個人の希望に合わせて個別の対応も行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 美容師の来訪あり相談しながらカットを行ったり、外出の際には女性の場合は化粧、男性の場合は髭剃りなど、必要に応じて介助を行っている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 調理の際にできる事を手伝っていただいたり、季節の素材について教えていただいたりしながら、食事が楽しいものになるよう支援を行っている。 | 一週間単位で献立を作成しています。旬の物を取り入れ、菜園の野菜の活用、利用者の誕生日は要望に応えたり、節分には恵方巻きを用意するなど、季節感や食欲に繋がる取り組みに努めています。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量や水分量の把握、また体重測定による変化の把握も行っている。また、咀嚼や嚥下の状態にあった食事形態を探り食べやすい食事を提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 歯科往診などの際に注意点やアドバイスをいただき、声掛けなどで口腔ケアを促し、本人が行うケアで不十分なところがあれば介助を行っている。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 排泄パターンの把握、また移動のための下肢筋力の強化など行い、快適で安全な排泄ができるよう介助を行っている。 | 利用者は布下着や衛生用品の使用などそれぞれに違いはありますが、職員は羞恥心に配慮して対応をしています。声かけや誘導により、トイレでの排泄支援に努めています。運動や食事の工夫等で、スムーズな排泄に繋げています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分を適度にとる事、寒い時期でも廊下歩行で運動するなどの対応をしている。また日々の献立には根菜や海藻など繊維の多い物を取り入れ便秘の予防に努めている。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている | おおよその入浴日は決まっているが、希望のあった際には対応できるよう心掛けている。また入浴剤を使用し入浴を楽しんでもらうよう努力している。 | 週2回を目安に入浴支援を行っています。入浴を拒む場合は、無理強いしないで曜日を変えたりシャワー浴や清拭を行い保清に努めています。利用者は職員支援の下、入浴剤入りの湯船に浸かり会話や歌を楽しんでいます。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中でも体力にあわせ静養の時間をつくるなど、個人の体調に合わせて対応している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬に関しては、セットの際のチェック表、服薬の際のチェック表を用い、実際の服薬時には2名の職員が対応するなど細心の注意を払っている。処方に変化があった際には全職員に周知徹底を行っている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 過去に好んでいた趣味だけでなく、行事の準備を手伝ったいただいたりすることにより、役割を持って生活していただけるように、また気分転換もしていただけるよう支援を行っている。 | | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 季節や天候、たま路面状況などに応じての支援を行っている。 | 利用者は天気の良い日に周辺の散歩やウッドデッキで寛いでいます。職員は外出行事を企画し、花見やドライブ、海水浴、紅葉見物等を利用者と楽しんでいます。その日の状態により、車を出し外気に触れる機会も作っています。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭管理の困難な利用者がほとんどであるが、行事の際などは施設内で使える独自の通貨を用意するなどして買い物の気分を味わっていただいている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望に応じて職員が支援している。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用部分の照明はいつも同じ白色の物を使い、またカーテンやタオルなども淡い色の物を用意するなどして、ゆったりと落ち着いた環境整備を心掛けている。また、季節に応じた絵や飾りなどで季節感を取り入れている。 | ホーム全体が床下から温風が出る装置により室温が一定に保たれており、湿度対策にも気を配っています。居間には神棚が設置されており、参拝している利用者もいます。利用者手作りのカレンダーや四季に合わせた飾りが家庭的な雰囲気を醸し出しています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ダイルームで利用者同士が談笑したりトランプ等のゲームをしたり、希望に応じて自室で臥床や音楽を聴く等、思い思いに過ごせるような対応を行っている。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族の協力の元、慣れた物、好みの物をそばに置き、心地よく過ごせるように対応している。 | 居室には利用者の作品である押し花や趣味の物が飾られています。テレビなど馴染みの調度品が持ち込まれ、利用者や家族の思いが反映されている環境になっています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 手すりや椅子の置き場所、洗面所の使いやすい場所など職員が把握し見守りの元で出来る限りの自立した生活を送れるよう支援している。 | | |